

塩尻

大政官文庫			
		一	和
		一	書
		一四	門
		九	
		七	
		一	
		二	
		函	
		架	
		冊	
		五	
		六	

内閣文庫			
		一	和
		一	書
		一四	類
		九	
		七	
		一	
		二	
		函	
		架	
		冊	
		五	
		二	
		二	

内閣文庫	
番號	和 11497
冊數	65 (10)
函號	211 302

十



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM Kodak



教部省
文庫
清印

福
清印

日
清印

待御史呂陶吉明堂降敕臣僚私於訖而兩省官

欲往真可馬光^是時程頤日子於^是日哭則不

歌豈可^加赦^亦知^往吊^喪坐客有^難之^{日子}

於^是日哭則不^歌即不言^歌不哭^今已^賀赦^去

往^吊衆^於禮^無害^蘇軾^遂以^鄙語^戲程頤

衆皆大^笑結^怨之^端蓋^自此^始又^因忌^行香^伊川^令供^素饌^蘇子^瞻語^之

程門朱公^撥鞞^銜之^遂之^敵矣

程頤在^經筵^多用^古禮^蘇軾^嫉其^不近^人情^遂

拾內一二七九〇號

河野のいさや今存は身と陰奥のいさの松尾村に人々
此より和ふ多し畧ス之ヲ

古自濃列至尾列一路野上青野大墓赤坂郡不破

自此越墨俣川ヲ出小能古尾列在尾栗郡加納尾列栗郡今属濃加

也今濃加 黒田尾列一ノ官同上下津同上萱津同上

今自濃列赤坂一歴墨俣一至絹屋越自此歴

萩原稻葉清須一出各古屋一行熱田

古尾列国衙今国府松平村自官未方也より増田赤坂郡出萱津行

今小路森及古道の林増田乃西南の各村の各

有とびの記あり

一宮村此南に岡氏兼松氏伴氏佐分氏乃古屋敷

乃此有官の由

中嶋郡堀田村此村氷室村堀田村平野村国府官

此の長谷雄卿十三世左衛門督紀行義乃子孫五位上尾張守紀
之高始て尾栗中嶋郡堀田村に住是堀田氏元祖也平野村
ハ從五位下右京進清原枝賢始て住レテヨリ平野氏稱ス其
子孫海東郡津嶋村に住セリト云云

長坂氏姓ハ弓削平岩都筑等と同祖也ト云始三列

額田郡大林に住て長坂太刀帯と稱せし其高長坂
 彦五郎位政 清康君に仕へて其功を勵し屢銜を以
 其功を成血鎧に乾時ありし時人稱し 清康君
 使名ヲ賜ひて血鎧九郎と号す惟茶利九郎 其子彦五郎位宅
 神君に仕へて又血鎧九郎と号す 武勇父に仕
 其子権七郎信吉 台徳公に奉仕 其子彦五郎忠尚本
 多内記に仕へて茶利九郎と稱せし 二男一兵信吉 嗣
 ありし 権七郎と名く今尾府下奉仕 長坂氏を不信政の高也

五 紀姓 堀田系圖 紋ハ三木葉 初紋ハ二段頭

孝元天皇 彦太忍信命 屋主忍武雄心命

武内宿禰 生於紀伊應神天皇九年賜之 紀姓 齡三百十歳云 木兔宿禰 初執政 齡百十八歳

真鳥宿禰 号ミ子群 大臣 齡百餘歳 谷寝臣 谷ニミ 又号ミ 齡百餘 真咋臣 一本真咋之上 有リ久比ノ臣

小足臣 塩子臣 推考 朝 大口臣 皇極 朝 大人 イカノト 改宿禰賜朝臣正三位 大納言始也

益人 号ミ祖 承無比 諸人 光行外祖 曾天政大臣 麻呂 大納言 又去朝 飯麿 鎮守府將軍 本名奈良春

宿奈磨 正三位 桓武朝 古佐美 大納言 廣瀨 肥後守 平城朝 長江 或部大輔

魚弼 山城守 奥三作以兼 国守 典藥頭 杖靴 拜正忠 杖一保貞

長谷雄

鴻儒号紀伊守
中納言從三位

濟光

參議從三位
河作以隣

文利

紀伊守

忠道

紀伊守出雲守
中納言從三位

家俊

紀伊守

宗信

彈正右衛門

宗雅

大藏大輔

定綱

官内出補
作宗綱

俊文

紀伊守從五位下
子載風雅作者

俊重

紀伊守

宗遠

河波守

重滿

河波守
承俊父重道重滿行義

行義

左衛門督

行高

行三作此之始移任尾張國中嶋郡堀田村
母今川貞世之弟蒲原氏兼之也

正恭

堀田孫正高之弟門下佐送出位下
於尾別津嶋立祖神公丹之祠俗呼彌五郎殿

貞國

四年正月於四條殿殺死作此之恭

之盛

一作正盛一修理大夫
新續草集作者

正重

尾張守宇津峯之官方
應永中移尾別津嶋村

正時

彌五郎

正綱

兵部大夫

正純

兵部大夫

女子

源良手室

良王宗良親王之孫
父手良親王也

正道

加賀守尾張國備後守信秀

正貞

孫右衛門法名道悅
子孫多矣

右尾別津嶋堀田氏家譜也正恭之裔安富細見

浦上等諸氏亦多矣

清原ノ姓

平野系圖紋二ツ魚鱗今二ツ鱗形
秘紋二日ノ紋

崇忠

食親皇十三世外記清原賴業十代孫少納言宗業之子也

始在良宣正位主水頭宇津峯官方應永中移入尾別津嶋村後与男宗賢入吉野一歷一年叙治任干北朝北朝領尾別津嶋野野村

宗賢

正位贈從二位
船橋伏原祖

枝賢

平野
右京進

國賢

少納言

秀賢

昇殿藏人
子孫仕朝臣

宣賢 從二位 璽 平野
實八下部 兼保子也

宗長 平野主水正
實八尾羽赤目城主 橫井越前守平政持子也
宗房 主水正
母堀田修理大夫正盛子

賢長 右京亮子孫仕北條家為駿加善篤寺城守法名万武勇人也
子孫改神田駿加神田修理亮寺是也

宣政 新左衛門仕平信長公
於本能寺戰死

業政 主水正

兼右 為下部兼滿之嗣九左衛門督從三位吉相續
萩原祖

長治 平野甚右衛門仕平信長公
為平野右京亮入万武之嗣

長恭 平野權早從五位下遠江守功人也
始仕豐臣秀吉後奉仕神君及台徳云

長重 九右衛門
長勝 權平

右尾羽津嶋平野氏家譜也右二姓系圖見

寬永御撰諸家系圖及船橋家譜等及

家傳系譜

寬永十八年二月有台命諸家系圖倭撰

惣裁 大田備中守資宗

奉行 御書預 星合伊左衛門具枝

三雲内記定氏

ありし一寺は供養の四行幸杯所しり常花物類に在りし
廢ちしゆり一院地心はさるる今ハ其墟とにあり佛像あり
堂今ハ東福禪寺に遷し名多しと名我尾別中嶋郡國衛の
國分寺より遷りし時荒廢し堂舎證狀杯ハ妙眞禪寺
有るゆりゆりし人々今ハ其墟とにあり佛像あり

世俗稱巫女ヲ為神子倭訓或人曰此美加子而巫之詁也
按楚辭雲中君朱註云靈神所降也楚人名巫
為靈子若曰神之子以此見之則美乎之稱倭漢

同其意美者尊稱備云伊美亦之意而
用御字亦云比美云遠也

因奉楚辭禮魂曰成禮分會鼓傳芭代無注會鼓
急疾擊鼓也芭ト同巫持香草神代卷上書曰
伊時並尊云祭此神之魂者花時以花祭又用鼓吹幡
旗歌舞而祭矣是也亦東西一般力真巫所持之香州者
古事記所謂子草結小竹葉似之此亦我國招魂之
時或ハ降神祭所為之也

古渡大堂乃緣起ハ大寺乃記事と云す附會也

撫子子高野山に攀登の祭ニ大有りて道守也
弘仁中高野山に攀登の祭ニ大有りて道守也
弓箒と帶せ化人山と指示也精舎建立之後將場
心神也記也其始の形と異と密家の傳
之と大堂と真言也乃禪寺の爲に本堂の獨ニ天と置し
と云す後世其語を忘れて寺舎地説を丹治基圖に官内太郎大山

師家義と云ふ者弘仁中弘法と尊号して高野山と号し
依て丹生明神と祀せし由有り是と亦将場明神の
事と所記する物と寛永御撰の本家系圖に記せり 青木
系圖

渡辺右馬允初馬満綱ハ後小松院の皇子大政大臣義満

將軍子仕侍乃字と獨と或者所子補せしむ其子源次元

綱吾子有允頼綱吾子源房安綱相續せり安綱の子源次

道綱始て参列額田郡浦辺村に住せし其子孫彼國より

少りしと云物也世流實ハ後少經氏と云ふ也甲初

本田家には一渡辺源五郎守綱の十七世源二繩の子也

後、佐長公に仕へ又、神君に属せし其子源藏安以来

今幕下に奉侍るは是ハ其のち渡辺源房なり

神君三列東條の城と振多し一時天野高兵衛康景と

て是と記しあり其のち其後他城と獲せしむる也

必康景とて信ありあり東條の御告例じと云ふ謂三

初東條吉田長篠瀧坂遠列懸川駿列田中江尻奥国守

尾列清須小牧前田蟹江勢列濱田豆列下田武列八王子

横羽大坂西丸等也一度と不負けく誌あり 御城に

つるし由 御撰の譜に又ゆき

世謂^フ悪七兵衛景清頼朝と度^カ人^ヲ乃^リ子^ニ南都大佛供
養^ノ時^ニ大衆^ノの^カ〇〇〇〇〇〇又謂^ク眼^ニ魚鱗^トと度^ハ
盲人^ノの形^ヲめ^テ幕^下と伺^ハし

此より^ハ東大寺に^テ大衆の^シして^ハ薩摩守^トなり^シ
右^ニ雜^ノ同^ノ鱗^トと眼^ニに^テ度^ハ〇〇〇〇〇〇上^ニ総^ノ五^ノ部^ノ兵衛尉^ト十二^ニ
是等^ノ次第^ヲ言^フ事^トなり^シ時^ニ流^ル傳^ハ習^ス事^ト也

大追物檢見沙汰記一卷小倉將監實澄文明十八年

正月所述也射家若流可^ニ傳習^ス事^ト也

高木主水依源清秀英士肖像讚

霹靂^ノ氣^ニ鉄石^ヲ賜^フ先^手握^ル角^ノ月^ニ

壯志^{昌^ス}釵^{霜^ヲ}計^{定^ス}普^{薩^ヲ}詔^{願^ヲ}保^{護^ス}

魁^{燈^ヲ}直^{挑^テ}累^{重^ク}光^{輝^ク}

彼^ノ像^{鑑^ト}と若^シ草^{堂^ト}宗^{師^ト}乃^リ挑^{灯^ノ}指^{切^ト}と負^タる^{事^ト}予^ハ疑^フす^{所^ナ}在^リ久^シ
の^{事^ト}當^レ依^リ書^ク事^ト也

蚊觸 東鑑五十二

蚊^ノ觸^ル事^トは^ハ疥^{癩^ト}を^{生^ジ}ら^スる^{事^ト}也^ト乃^リ初^メに^ハ
倭^{史^ト}に^ハ載^レる^{事^ト}也

正日 東鑑五十二智留抄外義景十二年之佛事云今 正日供^ニ
養^{多^ク}宝^{塔^ヲ}

曼陀羅花

曼陀羅、胡語唐に雜色と譯す、李時珍、佛經多是、道流も亦此に陀羅星、後石、不係、か、た、世、死、と、物、と、

本中集解、白春生、夏長、獨、草、直、上、高、廿、四、丈、生、不、言、方、引、葉、如、茄、葉、の、八月、花、白、花、凡、六、辨、狀、如、牽、牛、花、而、大、之、云、

○ 人傳記依書不同者倭漢間多矣以是非彼系

譜之書又甚矣古昔之事自今日而不可知之者

不可措而論乎

○ 林類曰死之与生一往一反故死於是者安知不

生於彼云又安知吾今之死不愈昔之生乎

云列子上天瑞

死是生彼浮屠氏所謂輪口也其說元出於列子

疑浮屠之說取之以為己之事故且用據王篇所

謂西極化人為術或上天而登天官等說浮屠

本之為天道之說仲尼篇所謂西方聖者是說西

方淨土以為說根本歟

既死豈在哉焚之亦可沈之亦可瘞之

亦可露之亦可衣薪而棄之諸溝壑亦可衣練裳

而納諸石椁亦可唯所遇乎列子下揚朱篇

是傳屬謂火葬水葬土葬野葬林葬皆全同

傳屬之說皆中烟異端陳言而不胡也之事

欣又放生之說出說皆篇不浮屠始言之文列

莊之書謂生死而不可知彼有死生之惑

淳層弥謂者多々迷レ之、を甚キ者以テレ之ヲ可レ
知ル也

。 藝列の吉川氏ハ工藤祐經の裔小早川氏ハ土肥實平
の末也幼少小早川中務少輔隆平子あり一毛利元就
乃ニ男又四郎隆景と養て子とせり是小早川權中納言
也 隆平ハ子太師元平と云
なり一人と云れり

。 中西黨ハ雲茄尼子家の麾下ありたり

。 或人曰頃日野史軍記の類ハそもあく世々あく行る
書林秘書とて是所街ハ軍記ハ被書本今仍り

東都に作らるハ事委トて虚誕ト高トク
述セ海ハ武門乃吟味に味トスル多ク

日彼書と云て尽然と云ふも偏ト本書古記ハ極ト云
希少の事ト又始終ト實ト云ふも何れハ云々
の尽書を修せん書ありに云々ト云ハハハハハハハハハ
理合ト云ハハハハハハハハハ

。 大神官心御柱たり神宮の秘説容易に口外
わづらひ御柱三時供奉の神官人

御巫内人一人 山内内人一人

菅裁内人一人 地祭内人一人

忌部

一人

頭工

一人

但忌部頭工者木本祭之外無供奉云

心御柱記一卷度會氏撰也其事委々々々たる物也

号口授と聞され、此の為に云々云々云々

菟木田度會の神主は傳へありきか

ひ——太神官に鶏を信や——延暦太神官儀

式に雞幾羽雞卵幾丸と云々云々云々

甲陽軍鑑ハ云々坂氏自記云々後人名を備て杜撰也

——書に南紀大園定祐カ川中嶋、戦辨に事々是云々

天文六年三月山本勘介信玄に誂に大内義隆の滅亡云々

義隆具臣陶晴賢に殺す云々——天文十年九月也何と十六年
前此春是と云々

筑麻川講和の時謙信自提原景時之南と稱す云々

謙信ハ平景弘の胤自是と云々

公方靈陽院義昭と云云

義昭ハ慶長二年八月薨して院号を奉りしを後天文六年に
死す二十余年前何と此院号と記す云々

天文六年七月川越夜軍同十五年七月川越の城と此

条氏援へて軍鑑二度の軍と一時と記す此謬也類考

りらと名や十二月六日の晩にあらざりし〜ま〜南
西隣にありし男子不死の婦人より山本意の〜
ふれを多しひら〜と効来乃 尊も正〜
杯将奉りて

藤原為明 安成

味沢相取言毛無也一枚濃綺仁御魂遠包屋
雖 トモ

御銘旗に故権中納言延三伝水戸侯源義公ノ柩 ヒツキ

山岩 トモ 為明

正五日の夜多ふあつこの少指貫す〜梅花
こまらう旅双歌の事考有
と吟せさせりし〜と梅々香はあけ
が畏鐘ふ〜

あつては...
...
...

...
...
...

石...
...
...

...
...
...

後朝...
...
...

多...
...
...

...
...
...

...
...
...

寄以園意

...
...
...

通書...
...
...

者多...
...
...

名...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

て昔の露もさしはるる花のうらみもさしはるる
こころのあはれもさしはるる花のうらみもさしはるる
出乃声もさしはるる花のうらみもさしはるる
はきよとてわが心もさしはるる花のうらみもさしはるる
秋のうらみもさしはるる花のうらみもさしはるる

月下開顔為經晚
林抄鵲雉翠烟寒
秋筵暫伴碧香暖
雲袖一懷白扇團
茅舍霧消影葉々
竹篱風巨露珊々

遇君更記古詩字
相見時難別亦難

いづれかたのこころに
くちかたのこころに
いづれかたのこころに
くちかたのこころに
いづれかたのこころに
くちかたのこころに
いづれかたのこころに
くちかたのこころに

護法帝應錄二十二卷 禪錄也

仙洞御製序題号云云 勅賜也

此書在少将源言保朝臣御撰集丙戌初夏賸写凡大邦

一部、禁裡 一部、輪王寺宮 一部、妙心寺

一部、鎌倉五山中 一部、東都月桂寺

一部、侍從 朝臣 吉保朝臣室 曾雄氏 以古紙錄二

卷^{セラル}為^ニ附録^{ト云}

○ 文明の^レあ^ハる^ル人^ノ地^ノ因^ニに^テ行^ハる^ル物^ノ一^ニ年^以ら^ズ

習^ハひ^テ傳^ハる^ル一^ノハ^ノの^レあ^ハる^ル物^ノ一^ニ年^以ら^ズ

君^ハ去^テ往^リ他^ノ郷^ニ 吾^ハ今^ハ卧^リ病^ノ床^ニ

訃音如落^ル耳 莫^ク惜^ム一^ノ歎^ノ香^ヲ

とみん^スり^テ客^中に^テ彼^ノ童^をあ^らく^ナし^テ久^ク再^ハ入^ル

よ^りあ^らく^ナし^テ一^ノ物^ヲ一^ノ物^トと^シて^モ或^レに^テ記^スる^ル

の^レあ^らく^ナし^テ一^ノ物^ヲ一^ノ物^トと^シて^モ或^レに^テ記^スる^ル

相送相迎月下門 一朝恨は一宵恩

春風立尽^ス緑苔路 幾拂^リ落花^ヲ看^ル履^ノ痕^ヲ

い^はれ^と傳^ハる^ル横^川ノ^レ作^也

不意^ニ獨^リ窓^ノ殘^ニ衣^ヲ夢 佳^ク君^ト同^ニ宿^シ解^リ愁^ノ情^ヲ

覺^レ来^ル枕^上無^ク入^ル語 只^ニ扣^キ曉^ノ天^ノ鐘^ノ一^ノ声^ヲ

一信と下... けいこ

我國年号大宝と始... 我年号ハ史にのせざる... 雄々蜀王本記に望帝位と敬皇... 帝と稱一年と方通と号せり... 我國至尊と天皇と稱一奉ハ唐の例と号す

按よりハ唐の高宗永元年九月壬辰... 又皇帝の号ハ中宗神龍元年十月... 應天皇帝といひ... 神宗聖寧中唐各無実の... 号の... 徳より尊一各けりて貴...

兵主考

按兵主神者謂素盞為尊也諸神記為八千矛... 神而末為至當通者神名帳其證也... 國城上郡元師坐兵主神社上載大神大物... 食物於大御食部... 食律ノ神今卷向元師社所坐... 舊事記文以

。 阿野家系圖と稱スルニ

。 孝靈天皇

彦狭嶋余

弟四ノ皇子

號ニ伊豫ノ親王ト

大宅姓

從三位論山積神社

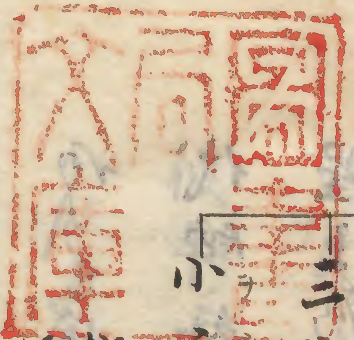
三嶋大明神是也

三宅姓

兒嶋氏祖

小子御子

阿野氏祖



揚子ノ子推系大宅姓祖ラ以ニ嶋神ト云イ豫ノ三嶋ノ神大山祇ノ命ヲ元韓ヨリ降臨由釋日本元見タリ今孝靈帝孫ト以ニ嶋ノ神トスル一蓋三嶋別宮歟神号モ亦流山積命ト号入書ヲ以傳フ疑フ

。 寶永三年丙戌十一月二日、夜七刻、隼刈山田中嶋

ヨリ出火山田中悉焼失、置本ヨリ東尾、部

坂ノ下ニテ火消スニ日ノ申ノ刻ニ至ル神宮

無恙渡ラセ給フ月讀及大間國生ノ社ノ辺

在家焼失ストイハトニ神社無ク事マシクケ

八宮、兵一、柵垣三位ノ館ヲ始權祢、宜

等ノ家ニテ焼亡ト云、御間廣新所鍛治垣外等東

